

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

臨床心理士養成コース

記載責任者

吉井 健治

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員就職率向上方策について

本学は第二期中期目標・中期計画において、「学士課程において教員就職率を70%以上にする」と明記している。教師を目指す学生が一人でも多く自己の進路希望を実現できるよう、この数値目標を達成するのはもちろんのこと、より一層教員就職率を上げるため、貴専攻・コースではどのような取り組みを行うか。具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

臨床心理士養成コースの大学院生の多くは、臨床心理士資格の取得を目指して入学している。就職先としては、スクールカウンセラー、児童相談所等の公務員、病院のカウンセラー、福祉施設等のカウンセラー、適応指導教室等の指導員などを希望している。

毎年、教職に就く院生もいるが、少数である。

そこで、本コースの場合は次のような目標を設定する。

- ①本コース修了生における臨床心理士資格合格率の推移を検討する。
- ②本コース修了生における過去5年間の就職状況について検討する。
- ③臨床心理士資格合格率および就職状況をさらに向上させるための要因について検討する。
- ④以上の検討に基づいて、授業内容、実習内容、資格受験対策、就職指導などの改善を図っていききたい。

2. 点検・評価

本コース教員は「カウンセリング論」、「生徒指導論」を担当しているが、こうした授業を通じて、教師としての生徒指導力の育成に力を入れた。

本コースの場合は、臨床心理士養成が主目的なので、こうした側面での点検・評価を以下に行うことにする。

本コースの修了生における臨床心理士資格合格率の推移、過去5年間の就職状況などのデータを調べ、臨床心理士資格合格率および就職状況をさらに向上させるための要因について検討した。しかし、授業内容、実習内容、資格受験対策、就職指導などの具体的な改善については十分には進められなかった。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①臨床心理士の養成を基本方針として学生指導を行う。
- ②指導教員以外にも、気軽に学生が相談できるように、コース内に担任制を敷くことにする。
- ③教員と修士課程1年生が親睦を深めるために、コース旅行を実施する。
- ④修士論文の指導とともに、院生が担当するケースおよび実践に対するスーパーヴィジョンを重視し、心理臨床家としての初期教育を充実させる。
- ⑤社会人としてのマナーを取得するために、公共施設の使用法、服装・髪型等の指導を行い、臨床心理士にふさわしい行動を促す。

2. 点検・評価

- ①臨床心理士の養成を基本方針として、専門職としての力量を育てるための学生指導を行った。
- ②指導教員以外にも、気軽に学生が相談できるように、コース内に担任制を敷いて学生の指導・支援を行った。
- ③教員と修士課程1年生が親睦を深めるために、コース旅行を実施した。
- ④修士論文の指導とともに、院生が担当するケースおよび実践に対するスーパーヴィジョンを重視し、心理臨床家としての初期教育に力を入れた。
- ⑤社会人としてのマナーを取得するために、公共施設の使用法、服装・髪型等の指導を行い、臨床心理士にふさわしい行動を促した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①それぞれの教員が研究活動を積極的に行い、著書・論文の執筆や学会発表を行う。
- ②文部科学省科学研究費補助金の申請を行うようにする。

2. 点検・評価

- ①論文の執筆・投稿、学会発表、研究の遂行において、それぞれの教員が積極的に取り組んでいた。また、さまざまな共同研究にチームの一員として参加した。本コース教員は院生の論文指導や学内・学外実習指導で多忙な中にもかかわらず、このように研究にも力を入れていた。
- ②文部科学省科学研究費補助金の申請では新規及び継続の研究があった。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

それぞれの教員が、委員として学内の各種委員会に出席し、職務を遂行する。

2. 点検・評価

それぞれの教員が、委員として学内の各種委員会に出席し、職務を遂行した。
また、それぞれの教員が学内各種委員会や事務からの様々な依頼に対して誠実に積極的に対応した。
例年通り、コースの定員確保に力を入れて、42名(定員40名)の入学者を迎えることができた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①本コースの教員(複数名)が、附属学校園にスクールカウンセラーとして赴き、心理相談及び臨床心理学的活動を行う。
- ②公開講座を実施する。
- ③本学支援講師・アドバイザー派遣等業務に協力し、保育所(園)、幼稚園・小・中学校への支援活動を行う。

2. 点検・評価

- ①附属学校との連携においては、臨床心理士の資格を有する教員4名が、附属学校園にスクールカウンセラーとして赴き、心理相談及び臨床心理学的活動を行った。なお、附属小学校、附属中学校のスクールカウンセラー相談日は各週1回だった。
- ②複数名の教員が公開講座を実施した。
- ③本学支援講師・アドバイザー派遣等業務に協力し、保育所(園)、幼稚園・小・中学校への支援活動を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本コースの教員は、県や市の教育委員会からの要請を受けて、さまざまな委員を引き受けた。また、学校現場の不登校、いじめ、発達障がいなどの課題に対して、教師やスクールカウンセラーからの依頼を受けて、講演や研修会の講師として助言・支援を行った。このように本コース教員は、積極的に大学の地域貢献を行った。